

乾 裕幸教授年譜

昭和七年（一九三二）〇歳

一月十九日、和歌山県那賀郡池田村（現在打田町）中三谷百三十七番地において、父乾綾彦、母ときゑの長男として生まれる。

昭和十三年（一九三八）六歳

四月一日、和歌山県那賀郡岩出尋常高等小学校に入学。

九月、二学期より和歌山県有田郡丹生尋常高等小学校に転校。

昭和十四年（一九三九）七歳

九月、二学期より和歌山県有田郡鳥屋城尋常高等小学校に転校。

昭和十六年（一九四一）九歳

四月一日、和歌山県伊都郡高野町高野山国民学校に転校。

昭和十九年（一九四四）十二歳

三月三十一日、高野山国民学校を卒業。

四月一日、和歌山県伊都郡高野山中学校（旧制）に入学。

昭和二十三年（一九四八）十六歳

四月一日、学制改革により、高野山高等学校（新制）二学年に編入。

昭和二十五年（一九五〇）十八歳

三月三十一日、高野山高等学校を卒業。

四月一日、高野山大学人文学部人文学科に入学、国文学を専攻。

〈荻野清教授の講筵に列し、俳文学を研究する。四回生の夏休み、奈良県丹波市町（現在天理市）に下宿先を求め、天理大学附属図書館錦屋文庫に通う。このとき中村幸彦・木村三四吾両先生に初めて知己を得る。〉

昭和二十九年（一九五四）二十二歳

三月三十一日、高野山大学を卒業。

〈卒業論文『西山宗因の俳譜』、副論文『典拠頭註大坂獨吟集・談林十百韻』。アメリカ真言宗別院より、卒業論文賞として金時計を受領。〉

四月一日、大阪府池田市立中学校教諭に就任。

十二月三日、池田昌子と結婚。

昭和三十五年（一九六〇）二十八歳

八月二日、恩師荻野清教授逝去。

十月十五日、第十一回俳文学会全国大会（早稲田大学）において

「拍子よき俳諧」と題して研究発表を行う。

昭和三十六年（一九六二）二十九歳

四月一日、故萩野先生追悼文集『はまなす』を編集刊行。

昭和三十七年（一九六二）三十歳

三月二十三日、高野山において父綾彦死去、享年六十六歳。

昭和三十八年（一九六三）三十一歳

三月三十一日、池田中学校を依願退職。

四月一日、大谷高等学校教諭に就任。

十月十九日、第十四回俳文学会全国大会（富山大学）において、

『談林十百韻』について」と題し研究発表。

昭和三十九年（一九六四）三十二歳

四月一日、高野山大学文学部人文学科非常勤講師を委嘱される。

〈昭和四十四年まで、毎年度更改委嘱。〉

九月二十六日、第十五回俳文学会全国大会（伊丹市中央公民館）に

おいて、「俗語を正す理念と〈姿〉の成立」と題し研究発表。

十月七日、長女ゆたか出生、同十三日死去。

十二月十三日、大阪俳文学研究会において「趣向に表と裏の事あり」

と題し研究発表。

昭和四十一年（一九六七）三十五歳

九月二十五日、母ときを死去。享年七十三歳。

昭和四十三年（一九六八）三十六歳

八月十五日、高野山大学国文学会において『おくのはそ道』の読

み方」と題し研究発表。

昭和四十四年（一九六九）三十七歳

一月十二日、大阪俳文学研究会において「蚊柱百句・俳諧中庸姿、

その他について」と題して研究発表。

一月十九日、池田市立中学校国語科研修会（池田市立北豊島中学

校）において、「俳諧入門」と題して講演。

昭和四十五年（一九七〇）三十八歳

三月三十一日、大谷高等学校教諭を依願退職。

四月一日、親和女子大学文学部助教教授に就任。

四月十九日、大阪俳文学研究会において、『命二つ』考」と題し研

究発表。

五月十七日、大阪俳文学研究会において「寛文期における惟中と宗

因の關係について」と題し研究発表。

六月二十日、萩野清著作集第二「猿蓑俳句研究」を共編、赤尾照文

堂より発行。

十月十八日、第二十一回会俳文学会全国大会（鹿児島大学）におい

て『大坂獨吟集』の成立と性格」と題し研究発表。

昭和四十六年（一九七二）三十九歳

四月三十日、荻野清著作集第一『俳文学叢説』を共編、赤尾照文堂より発行。

六月十三日、大阪俳文学研究会において、「前句付について」と題し研究発表。

十月十六日、第二十二回俳文学会全国大会（日本近世文学会全国大会並催）（高野山大学）において、「西鶴の正風意識」と題し研究発表。

昭和四十七年（一九七二）四十歳

四月一日、大谷女子大学文学部非常勤講師を委嘱される。（昭和五十年年度まで毎年度更改委嘱。）

九月十六日・三十日、大阪国文談話会円珠庵土曜講座（芭蕉講座）において、『猿蓑』を講義。

昭和四十八年（一九七三）四十一歳

五月二十五日、大阪俳文学研究会において、『阿蘭陀丸二番船』の四句付」と題し研究発表。

昭和四十九年（一九七四）四十二歳

四月一日、国文学研究資料館調査員を委嘱される。（本年度のみ）。
七月二十日・二十一日、松田修・廣末保・井上ひさし・谷脇理史各氏とのシンポジウム「西鶴」に出席。

十月十九日、第二十五回俳文学会全国大会（岡山大学）において、

「雪中の笋俳諧にあり」と題し研究発表。

昭和五十年（一九七五）四十三歳

四月一日、大谷女子大学大学院文学研究科非常勤講師を委嘱される。
〈昭和五十二年年度まで毎年度更改委嘱。〉

昭和五十一年（一九七六）四十四歳

二月十三日、大阪府豊能府民センターにて「西鶴のおもしろさ」と題して講演。

四月一日、親和女子大学文学部教授に昇任。

十一月二十七日、阿部完市・上野洋三・桜井武次郎・坪内稔典・松尾美恵子各氏とのシンポジウム「芭蕉をどう読むか」に出席。

昭和五十三年（一九七八）四十六歳

三月三十一日、親和女子大学を依願退職。

四月一日、帝塚山学院大学文学部教授に就任。

十月三日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、「浮世草子の誕生―西鶴『好色一代男』―」と題し講演。

十月十八日、大阪文学学校主催現代俳句講座「何が未了か」において、「俳諧のことは―西鶴・芭蕉・蕪村など」と題して講演。

十二月二十四日、白石悌三氏と「連句の愉しさ」と題して対談。
十月二十六日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において

「大阪俳壇の成立」と題して講演。

昭和五十五年（一九八〇）四十八歳

二月二十二日、白石梯三氏と「続・連句の愉しさ」と題して対談。

五月一日、妻昌子死去。享年四十四歳。

九月十八日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、

「西鶴の俳諧」と題して講演。

昭和五十六年（一九八一）四十九歳

四月一日、平凡社より『大百科辞典』の編集委員を委嘱される。

七月二十二日、瓜生安代と結婚。

十月六日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、

「俳諧師芭蕉」と題し講演。

十月十一日、三重県上野市主催芭蕉祭において、「芭蕉の伝記と文学」と題して記念講演（上野市中央公民館）。

十月十二日、『ことばの内なる芭蕉』（昭和五十六年四月二十五日・

未来社発行）の著述により、昭和五十六年度文部大臣奨励賞を受

賞。

昭和五十七年（一九八二）五十歳

四月一日、関西大学文学部および大学院文学研究科非常勤講師を委

嘱される。〈昭和六十二年度まで毎年度更改委嘱。ただし文学部

は、昭和六十年・六十一年度のみ離任。〉

六月二十日、大阪俳文学研究会（大谷学園）において、『いつを昔』

について」と題し研究発表。

九月二十四日、「芭蕉の詩学」^{ポエティクス}と題し、山口昌男氏と対談。

十月八日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、

「西鶴のえがいた親子像」と題し講演。

昭和五十八年（一九八三）五十一歳

二月九日、長男恭平誕生。

五月二十三日、廣末保氏と「近代」が欠落させた精神―俳諧、そ

の可能性」と題して対談。

十月十一日、文化セミナー「大阪論」（大阪府文化情報センター）

において、「大阪俳壇の成立―西鶴の役割に触れつつ」と題し

て講演。

昭和五十九年（一九八四）五十二歳

三月一日、高槻市成人大学講座（高槻市中央公民館）において、

「江戸時代における庶民文化」と題し講演。

四月十二日、九月三十日までの半年間、私学研修福祉会の国内研修

制度により、天理大学に留学。

四月十八日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）において、

「芭蕉以前の俳諧」と題し講演。

四月二十五日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）において、

「談林派の新風桃青」と題し講演。

五月十一日、大学婦人協会（大阪市立婦人会館）において、「大坂の俳人西鶴」と題し講演。

六月十五日、大学婦人協会（大阪市立婦人会館）において、「西鶴小説の面白さ」と題し講演。

六月二十九日、親和女子大学国文学会において、「江戸の短い文芸―狂歌・俳諧・川柳・小唄・小咄など―」と題し講演。〈昭和六十年三月一日、親和女子大学国文学会報第一五号に掲載。〉

七月十四日、いたみ俳諧センター（柿衛文庫館）において「貞門・談林」と題し講演。

九月十二日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）において、「芭蕉と西鶴」と題し講演。

十月二十八日、俳文学会第三十五回全国大会（東北歴史資料館）において、「〈読み〉の多様性と許容度」と題し研究発表。

十一月二日、高槻市民大学講座（高槻市三ヶ牧公民館）において、「西鶴『世間胸算用』にみる庶民の哀歓」と題し講演。

昭和六十年（一九八五）五十三歳

本年度より俳文学会常任委員に選出され、平成五年度まで就任。

本年度より芭蕉祭文部大臣奨励賞選考委員を委嘱され、毎年更改されて現在に至る。

四月二十日、泉北教養講座「『おくのはそ道』を読む」（泉ヶ丘市民センター）が開講され、講師を委嘱される。〈昭和六十二年十二月まで〉。

五月九日、帝塚山学院大学公開講座〈元禄の詩人と文豪〉一「元禄民衆文化の夜明け」を講演。

五月十六日、同二「放浪の詩人風羅坊芭蕉」を講演。

五月二十三日、同三「芭蕉歌仙、この走馬燈の詩」を講演。

六月六日、同四、「元禄ヌーボー・ロマンの旗手松寿軒西鶴」を講演。

六月十三日、同五、「色と金のへ人は化もの」を講演。

六月二十日、同六、「芭蕉VS西鶴―ひとつのライバル物語」を講演。

七月十三日、柿衛文庫俳諧セミナー（柿衛文庫館）において、「芭蕉の発句」と題し講演。

十月一日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、「西鶴のこころ―好色物」と題し講演。

十月八日、池田市成人大学講座（池田市中央公民館）において、「西鶴のこころ―武家物」と題し講演。

十一月二十一日、伊丹市立中学校国語科研修会（柿衛文庫館）において、「蕉風開眼―古池の蛙―」と題し講演。

昭和六十二年（一九八七）五十五歳

四月一日、成蹊女子短期大学非常勤講師を委嘱される（本年度のみ）。五月九日、伊丹市柿衛文庫館において、「俳諧のことは、俳句のことは」と題し、坪内稔典氏と対談。

五月二十三日、狭山成人大学講座（大阪狭山市図書館）において、

「芭蕉の生涯―虚像と実像―」と題し講演。

五月三十日、狭山成人大学講座（大阪狭山市図書館）において、

「旅行く芭蕉―一所不住の人生観―」と題し講演。

六月六日、狭山成人大学講座（大阪狭山市図書館）において、「スライドで迎える奥の細道」と題し講演。

六月二十七日、狭山成人大学講座（大阪狭山市図書館）において、

「芭蕉の俳句―『古池や』の世界―」と題し講演。

七月四日、狭山成人大学講座（大阪狭山市図書館）において、「芭蕉の連句―詩の連想ゲーム―」と題し講演。

十二月十九日、泉北教養講座「『おくのほそ道』を読む」は二十五回をもって終講。

昭和六十三年（一九八八）五十六歳

本年度より俳文学会「連歌俳諧研究」編集委員を委嘱される（平成五年度まで更改委嘱）。

一月十六日、泉北教養講座（和泉ヶ丘市民センター）において、

「『古池や』の句談義」と題して講演。

三月三十一日、帝塚山学院大学教授を依頼退職。（来年度のみ非常勤講師を委嘱される。）

四月一日、関西大学文学部教授に就任。

四月、千里文芸サロン「西鶴の世界」講座を企画立案。

四月二十七日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）西鶴の世界講座において、「俳諧師西鶴」と題し講演。

五月十一日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）西鶴の世界講座において「詩から散文へ」と題し講演。

七月三十日、「芭蕉と現代俳句」と題し、坪内稔典氏と対談。

九月十七日、仙台市博物館において、「おくのほそ道の芭蕉」と題し講演。

十一月二十六日、大学婦人協会（大阪市立婦人会館）において、「高野山と文学」と題し講演。

平成元年（一九八九）五十七歳

五月七日、第一回現代俳句協会青年部シンポジウム「俳句の原点」に、阿部完市（司会）・岡井省二・中嶋秀子・夏石番矢の各氏と共に、パネラーとして出席（東京都新宿セブンシティー）。

五月二十七日、大阪俳句史研究会（園田学園女子大学コミュニティ

ホール）において、「俳諧と俳句―その架橋するもの―」と題し講演。

六月一日、「俳句空間」（弘栄堂書房）評論賞の選考委員を委嘱される。

六月七日、大東市芭蕉講座（大東市教育委員会）において、「芭蕉の虚像と実像」と題し講演。

六月十四日、大東市芭蕉講座（大東市教育委員会）において、「詩人芭蕉」と題し講演。

六月二十日、大阪文化センター（大阪府文化情報センター）において、「軽口の俳諧」と題し講演。

六月二十一日、大東市芭蕉講座（大東市教育委員会）において、「旅人芭蕉」と題し講演。

六月二十八日、大東市芭蕉講座（大東市教育委員会）において、「老いたる人芭蕉」と題し講演。

六月、窪田薫著『二十世紀は米寿⁸⁸』に序文を草す。

七月五日、大東市芭蕉講座（大東市教育委員会）において、「芭蕉と同時代人」と題し講演。

七月九日、第十五回飛鳥史学・文学講座（明日香村中央公民館）において、「大和路の芭蕉」と題して講演。

九月二十五日、読売宗教講座三一六回（読売新聞大阪本社）において、「芭蕉の旅と万物流転」と題し講演。

九月二十七日、論文「周縁の歌学史―古代和歌より近世俳諧へ―」

（六月十五日・桜楓社発行）により、関西大学（学長大西昭男教授）から文学博士の学位を授与される。

十一月十日、吹田市民大学教養講座（吹田市千里市民センター）において、「芭蕉の門人指導」と題し講演。

平成二年（一九九〇）五十八歳

六月二十三日、俳人協会主催第一回関西俳句古典講座（大阪市立労働会館）において、「蕉風俳諧―伝統と創造―」と題し講演。

六月二十六日、大阪文化セミナー（大阪府文化情報センター）において「芭蕉の〈老い〉と俳情」と題し講演。

七月二日、第十六回飛鳥史学・文学講座（明日香村中央公民館）において、「同世代の二俳人―芭蕉と西鶴―」と題し講演。

八月十七日、柿衛文庫館において、桜井武次郎・坪内稔典両氏と「俳句の特性」と題して鼎談。〈平成三年一月・二月発行の俳誌「海門」に分載〉。

十月五日、吹田市民大学教養講座（吹田市千里市民センター）において、「芭蕉の嗜好」と題し講演。

十月十四日、柿衛文庫館において、「館藏品で辿る俳諧の歴史」と題し講演。

平成三年（一九九一）五十九歳

四月一日、関西大学より本年度国内研究を命ぜられる。

四月二十一日、角川書店より『俳文学大辞典』の編集委員を委嘱される。

六月二日、第十七回飛鳥史学・文学講座（明日香村中央公民館）において、「大矢数の覇権争いー大和多武峰の月松軒紀子という男ー」と題し講演。

九月、千里文芸サロン「芭蕉七部集」講座を企画立案。

十月十六日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）芭蕉七部集講座において、『冬の日』ー古さと新しさーと題し講演。

十月三十日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）芭蕉七部集講座において、『あら野』ー元禄正風体の確立ーと題し講演。

十一月十三日、千里文芸サロン（よみうり文化センター）芭蕉七部集講座において、『猿蓑』ー蕉風の古今集ーと題し講演。

平成四年（一九九二）六十歳

四月一日、関西大学図書館影印叢書編集委員を委嘱される。

六月一日、高槻文化大学（高槻文化ホール）において、『漂泊の詩人たちー芭蕉』と題し講演。

八月七日、朝日カルチャー・センター（朝日新聞大阪本社）において、『西鶴の俳諧』と題し講演。

八月二十日、根本青愁著『わが齡』に序文を草する。

九月二十九日、大阪文化セミナー（大阪府文化情報センター）にお

いて、『芭蕉における季語のはたらきー季節・季語論争にちなんでー』と題し講演。

十月三十日、吹田市民大学教養講座（吹田市立千里市民センター）において、『無所住としての家ー漂泊者芭蕉ー』と題し講演。

十一月一日、加古川市読書講演会（加古川総合文化センター）において、『漂泊の俳人芭蕉ー『奥の細道』を中心にー』と題し講演。

十一月八日、柿衛文庫館において、『西鶴の俳諧』と題し講演。

平成五年（一九九三）六十一歳

六月、西鶴没後三百年記念にちなみ、読売新聞社文化部記者（岡部知子氏）のインタビューを受け、十九日及び二十六日付各々刊紙に、『平成西鶴ばなしー記録への挑戦上・下』との見出しで掲載。

八月十四日、芭蕉没後三百年記念講座「芭蕉」（柿衛文庫館）において、『談林俳諧と芭蕉』と題し講演。

十月八日、吹田市民大学教養講座（吹田市立千里市民文化センター）において、『西鶴『本朝二十不孝』の世界』と題し講演。

十月十九日、おおさか文化セミナー（大阪府文化情報センター）において、『俳諧師西鶴』と題し講演。

十一月一日、『芭蕉こそ野心的、意欲的に時代を生きた作家』と題

して、堀信夫・坪内稔典両氏と鼎談。〈オール関西〉十巻八号掲載。

十一月四日、高槻文化大学（高槻現代劇場）において、「俳諧師西鶴」と題し講演。

平成六年（一九九四）六十二歳

三月十二日、朝日カルチャー・センター（朝日新聞吉屋支社）において、「芭蕉・発句の世界」と題し講演。

五月二十六日、高槻文化大学（高槻現代劇場）において、「蕉風の確立へー蛙が古池に飛び込むまでー」と題し講演。

十月二十一日、吹田市市民大学教養講座（吹田市千里市民センター）において、「西鶴の『母』・近松の『母』」と題し講演。

十一月十二日、摂津市立公民館館外講座において、「芭蕉の虚像と実像」と題し講演。

十一月二十二日、伊丹市立図書館文学セミナーにおいて、「西鶴の『母』・近松の『母』」と題し講演。

平成七年（一九九五）六十三歳

九月三十日、柿衛文庫館において、「近世初期俳諧と立圃」と題し講演。

十月二十日、吹田市市民大学教養講座（吹田市千里市民センター）において、「脱政治の文学ー法度の俳諧と芭蕉ー」と題し講演。

十一月十四日、伊丹市立図書館文学セミナーにおいて、「脱政治の文学ー法度の俳諧と芭蕉ー」と題し講演。

平成八年（一九九六）六十四歳

十月二十五日、吹田市市民大学教養講座（吹田市立千里山市民センター）において、「大晦日は一日千金ー西鶴『世間胸算用』の世界」と題し講演。

十月二十七日、池田市生涯学習大学講師を委嘱され、芭蕉の連句・発句を講じる。〈平成十二年六月、病氣のため講師を辞退。〉

十一月一日・二日、来日中のドイツ詩人ラインハルト・テール氏（シュツットガルト大学教授）を囲み歌仙を巻く（関西大学文学部ドイツ文学科合同研究室）。連衆はテール氏のほか、アントニー・ギブス、ゴードン・ジョンソン、村上弘雄、諸沢巖、佐伯哲夫、坂本悠貴雄、デートレフ・シャウヴェッカー、鈴木俊の各氏と乾。

十一月十九日、伊丹市立図書館文学セミナーにおいて、「大晦日は一日千金ー西鶴『世間胸算用』の世界ー」と題し講演。

平成九年（一九九七）六十五歳

六月一日、池田市図書館協議会委員を委嘱される。〈平成十二年六月、病氣により委員を辞退〉

十月十一日、第五十一回芭蕉祭（三重県上野市商工会議所）において、「芭蕉の食事」と題し記念講演。〈芭蕉翁顕彰会会報十五号（平成十年一月）・同十八号（平成十一年一月）・同十九号（平成

十一年八月)に分載)。

十月十七日、吹田市民大学教養講座(吹田市立千里市民センター)において、「御触書と文学」と題し講演。

十一月十八日、伊丹市立図書館文学セミナー(伊丹市立図書館)において、「御触書と文学」と題し講演。

平成十一年(一九九九)六十七歳

七月二日、吹田市民大学講座(吹田市立千里市民センター)において、「俳諧の本意説と自然―芭蕉の場合―」と題し講演。

十一月十二日、伊丹市立図書館文学セミナー(伊丹市立総合教育センター)において、「俳諧の本意説と自然―芭蕉の場合―」と題し講演。

平成十二年(二〇〇〇)六十八歳

五月二日、病(腓体尾部癌)を得て入院。

七月七日、退院。

七月十五日・十六日、最後の家族旅行(有馬温泉)。

八月三十一日、再入院。

九月二十二日午後七時十分、すい臓がんのため大阪府吹田市の病院で死去。遊俳幸志居士。

『祝祭の日々―死を控えて―』(私家版)を刊行。

○ 本年譜は『祝祭の日々―死を控えて―』から転載した。